

まえがき

本書は中南米総合研究事業（平成5・6年度の総合課題「ラテンアメリカの構造的再編成」）の一環として、平成6年度に実施された研究会「中米：地域紛争から地域協力へ」（主査 石井 章）の成果をとりまとめたものである。

中米はメキシコと南米大陸に挟まれた地峡部分で、現在小国家に分かれているが、各国は歴史的につながりが深く、相互に大きく影響し合っている。広大な中南米の中では比較的コンパクトにまとまった地域として把握しやすい。東西冷戦の時代には地域紛争の波にもまれ、冷戦後の世界の構造的再編成を前にして新たな対応を迫られているのがこの地域である。

この研究会は形式上は単年度のものであるが、実質的には平成5年度の研究会「90年代中部アメリカの政治・経済」（主査 石井 章）を継承したものである。「中部アメリカ」という言葉は日本では定着しているとはいえないが、そこではメキシコ、中米、カリブ、ベネズエラを含む地域の意味で用いた。中部アメリカ研究会の成果は『ラテンアメリカ・レポート』Vol.11 No. 1（特集：90年代中部アメリカの政治・経済）に掲載されたほか、同上誌 Vol.11 No. 2 および No. 3 に分散して掲載されている。また平成5年12月には海外から専門家を招聘して、国際ワークショップ「紛争後中米の構造的再編成」を開催した。ワークショップの成果は、『ラテンアメリカ・レポート』Vol.11 No. 2（〈特集〉国際ワークショップ：紛争後中米の構造的再編成）に掲載されている。平成6年度の研究会は、5年度の研究会および国際ワークショップで討議されたことを継承し、発展させるかたちで行なわれた。

本書の完成までには研究所内外の多くの方から貴重なご教示、ご協力をいただいた。平成5年度中部アメリカ研究会および6年度中米研究会において、講師として有益な情報、ご意見を提供して下さった淵上 隆（外務省）、アルトゥーロ・グリスビー（ニカラグア・NITLAPAN研究所）、小泉潤二

(大阪大学), 小林志郎(日本貿易振興会)の各氏に深甚なる感謝の意を表したい。また国際ワークショップに講師として来日し, 報告をしていただいたダニエル・カマチョ(コスタリカ大学), ラウル・ベニーテス・マナウト(メキシコ国立自治大学)の両氏, ならびに同ワークショップにコメンテーターとしてご協力いただいた渡辺利夫(外務省), 出岡直也(東北大学)の両氏, 中部アメリカ研究会の委員であった山岡加奈子, 坂口安紀, 北野浩一(いずれもアジア経済研究所), 中米研究会の委員の黒崎利夫(日本貿易振興会)の各氏に改めて感謝の意を表したい。

なお黒崎氏のパナマ運河に関する論考は本来本書に収録すべきものであったが, 本書の基本テーマと若干内容が異なるので, 別途『ラテンアメリカ・レポート』に掲載する予定である。

1995年12月

編 者